

説明会は満員の盛況だった



夏の電力不足対策説明会開く ホール5団体

6000人参加で充実 節電25%以上 具体化へ前進

今夏の電力不足が国民的関心事となつている中、ホール5団体(全日遊連、日遊協、同友会、余暇進、P C S A)が主催する「夏の電力不足対策説明会」が6月7日、東京・

墨田区のすみだ産業会館サンライズホールで開かれた。首都圏のホール関係者を中心に約460人が詰めかけて用意された椅子席が満員となり、展示企業関係者等も含めると6000人近くが

参加するなどこの問題への関心の高さを見せつけた。

ホール5団体は4月25日の代表者会議で、7～9月に東京電力管内で25%以上のピーク電力削減を決めた。具体的には、月3日以上(平日)の輪番休業で15%を削減し、さらに各ホールが13%削減を目標に空調や照明など店内での節電努力をし、合わせて25%以上の削減を達成するとしている。今回の説明会は、ホール経営者と現場の店長・

従業員に25%削減の重要性を理解してもらおうとともに、空調や照明など店内での節電努力の方法を例示して参考にしてもらうために開かれた。

主催者を代表して全日遊連、原田實理事長は「明日に向かって安定的な業界を維持するため、今、節電という大きな業務が課せられている。25%削減は厳しい数字だが、業界が一致団結して努力し電力不足を乗り切ろう」とあいさつした。

試されている意識を

警察庁、玉川達也保安課長補佐は、「政府の節電目標(前年比で15%抑制)に対して、遊技業界が自主的に高い節電目標を掲げたことは評価される」と述べた。その上で、「この大震災では、パチンコ営業所の電力使用のあり方に大きな批判が寄せられた。今回の大震災に伴う電力不足は、パチンコ営業での電力使用のあり方を一から

考え直す機会になるだろう。間違いない。夏には、国民全体からパチンコ営業における節電の状況はどうなのか、どれほどの効果が出ているのか、期待とともに厳しい眼差しが注がれる。業界が公表した節電目標は、すなわち業界から国民全体へ向けられた約束だ。対応を誤れば、長きにわたって業界のイメージを大きく損なうだろう。業界は社会の要請に応えられるか試されているという意識を持って、業界の明日のためにも真剣に取り組むことが必要だ」と強く指摘した。

影響など工夫して

経産省資源エネルギー庁の担当官が今夏の電力需給対策のアウトラインを説明した。基本的な考え方として、①国民生活、経済活動への影響を最小限にとどめる ②復興の基盤である産業の生産、操業への影響を最小限にする ③労使間の問題が出てきた場合は双方で十分に話し合いながら進めていく ④被災地には最大限の配慮をする ⑤今夏の需給対策にとどまらず将来につながる施策に取り組み——の5点を挙げた。需給対策の基本的枠組みについては、あらかじめ

節電関連企業の説明を熱心に聞く参加者たち



ピーク期間、時間帯の抑制幅を提示し、需要側が操業時間のシフト、休業、休暇の長期化・分散などの工夫をこらして計画的に取り組めるようにし、計画停電は原則行わないが、最終的なセーフティーネットと考えておくとしている。そ

ン等で構成され、各店が自分で数字を記入し、アクションの各項目で実行できたか否かをチェックする。実績の数字(%)は翌月に出る検針の数字かデマンド監視装置の数字を活用する。節電アクション等は「6つの基本アクション」「輪

の上で、東京、東北両電力管内の供給力の見通しと、それに伴う需要抑制の目標「均一15%削減」を説明し、業界の理解と協力を求めた。

確実な チェック実行

主催者側から電力不足の基礎知識が改めて説明された。政府の節電表示フォーマットを参考に、ホール5団体環境実務者会議が作成したパチンコ店向けの節電行動計画フォーマットが紹介され、その書き方のレクチャーがあった。内容は7、8、9月の月ごとの節電計画と実績、節電アクション

番休業」店が独自に考えた節電アクション」「メンテナンスや日々の節電努力」でこのうち最重要な「6つの基本アクション」は、①外壁照明の終日消灯 ②ネオン、看板、電光掲示板等の消灯 ③ホール内の間接照明を点けない ④自販機の照明の24時間消灯 ⑤ホール内照明の50%以上間引き ⑥エアコンの設定温度を2度上げる」となっている。

「節電行動計画」は店内に掲示してお客様の理解を求め、「節電休業のお知らせ」「節電宣言ポスター」とともに店外にも掲示して、パチンコをしない人たちにも業界の決意をアピールしていきたいとしている。

マルハン、山水が報告

節電方法の具体例として、(株)マルハン、(株)山水の2社から報告があった。(株)マルハンは3年前から取り組み、各店舗が独自の工夫を展開しているエコ活動とその実績を紹介、「意識改革による運用改善で10%の省エネは必ずできる」

と強調した。(株)山水は「お金をかけない節電対策」として、閉店時の作業手順の変更・時間の圧縮・ルールの見直し等、中小ホール向けの節電努力を紹介した。会場ではデマンド監視設備4企業、節電関連設備10企業がそれぞれシステムや機材を出展し、参加者から熱心な相談や商談を受けていた。

項目	7月	8月	9月
① 営業中の節電	%	%	%
② 休業中の節電	%	%	%
③ 全体の節電	%	%	%
節電目標及び実績	%	%	%

ばちこ 節電宣言 25%以上
SAVE ELECTRICITY 25% or MORE
夏のピーク電力を 25%以上 カットします!!

各店が掲示することになる「節電休業のお知らせ」「節電行動計画」「節電宣言ポスター」

警察庁「夏季の省エネ対策」で文書

会員への周知要請 排出ガス報告で震災の影響配慮

警察庁は6月2日、保安課長名で「夏季の省エネルギー対策への協力について」と題する文書を日遊協宛に発した。これによると、5月30日開催の省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議での申し合わせに基づき、国・地方公共団体・事業者及び国民が一体となった省エネ推進が求められていることを踏まえて、会員企業に対して省エネ推進を周知させるなどの協力を要請している。日遊協では直ちに会員宛にその旨を発信した。

報告の仕方細かく指示

また、同文書では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」で、事業者の温室効果ガス排出量(平成22年度分)の報告が7月末までとなっている点に關し、震災の影響(被災によるデータ紛失、避難指示によるデータ取扱不能等)により報告データを欠損した事業者に対して環境省の対応方針(Q&A)を伝え、この点につ

いても会員企業への周知を要請している。

環境省の対応方針要旨は次のとおり。

- 震災の影響により、「すべての排出量」等が把握できない⇒報告の必要なし。
- 震災の影響により、「一部の排出量」等が把握できない⇒当該排出量を除いた排出量を算出して報告。一部の排出

東北電力管内の節電決まる

2日以上の輪番休業

ホール5団体、20%以上合意

ホール5団体(全日遊連、日遊協、同友会、余暇進、PCSA)は6月15日、今夏、東北電力管内(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟県)での電力供給不足に対処するため、7、8、9の3か月間、管内のホールは20%以上の電力削減を行うこと、月2回以上(平日)の輪番休業を実施することで合意した。

具体的には、平日2回の輪番休業で10%削減を実現し、残りについては、①外壁照明の終日消灯 ②ネオン、看板、電光掲示板等照明

量が報告できない旨を所定の報告様式に記載。ただし、把握できる排出量か制度の対象要件に満たない場合は報告の必要なし。

●電力需給対策や計画停電対応として自家発電設備を使ったり、設備の運用方法、操業時間等を変更する等により排出量が増加した⇒増加した排出量を含めて実際の量を報告。増加した理由を所定の報告様式に記載。

●震災の影響により、報告書を期限内までに提出することが困難⇒事業者の状況に応じて柔軟に対応するので、各提案先に相談を。

の消灯 ③ホール内の間接照明を点けない ④自動販売機の照明の24時間消灯 ⑤ホール内照明の50%間引き ⑥エアコン設定温度の2度アップ——を実施して、13%以上の削減を目指す。その他、LED照明への変更などでさらに削減を図る。

貯玉補償基金理事会

被災地補償の内容検討

一般社団法人貯玉補償基金(代表理事：深谷友尋日遊協会長)は6月

23日、日遊協本部会議室で第35回理事会を開き、東日本大震災の被災状況の報告のあと、被災加盟店の貯玉補償に関する内容を検討した。被災ホールは6月23日現在37店舗で①補償額②求償額③その確定期日④求償額の支払猶予、分割などについて確認を行った。

総会で深谷代表を再任

これに先だち6月10日、東京・千代田区のグランドアーク半蔵門で第5期定時社員総会を開いた。第1号議案として10年度事業報告及び計算書類を承認した。第2号議案として「定款」の一部改正を承認し、第3号議案として、理事及び監事の任期満了にともない、新たに理事、監事を次のように選任した。

深谷友尋(日遊協会長)、日野二郎(同相談役)、阿部恭久(同副会長)、篠原弘志(同専務理事)、堤義成(同理事、顧問弁護士)、木原一雄(自工会理事長)(以上個人社員)、森重道(Ｊ－NET参与)(法人社員)の7氏を理事に選任し、伊東慎吾氏(日遊協常務理事)を監事に選任した。引き続き第34回理事会が開かれ、深谷理事を代表理事に選定した。

東京都・関東支部ボランティア隊

忘れられない「トマト」
「ベドロ、悪臭と格闘して

▽日時 6月20日～6月22日

▽場所 宮城県石巻市片倉町

▽隊員 隊長・佐藤耕平、土井正行、大木慎一(株)千歳観光) 宮崎昭雄、木本聖彦、三枝大将(ジャパネットワークシステム(株)) 野瀬雄平(ピーアークホールディングス(株)) 近裕一(株)ファンタジスタ) 作業 個人宅のヘドロ除去作業



スコップを使い、土壌に詰める作業に汗を流す東京都・関東支部のメンバー

個人宅の敷地40畳ほどのヘドロ除去で、見た目は普通の庭でしたが、海水によって重みを増している作業は肉体的に大変厳しいもので、覚悟していた以上のものがありました。その上、強烈な悪臭で、こまめな休憩と水分補給を行う事が非常に重要になりました。昼食は空き地で摂っていたので

すが、ご近所の年配の女性が手作りのサラダと丸ごとのトマトを差し入れてくれ、その予期しなかった触れ合いとトマトの瑞々しさは乾ききった体には最高のサプライズで、誇張でもなんでもなく、生涯食したトマトの中で間違いなく一番美味しいトマトでした。

また、個人的に印象深かった事は、まだまだ被災の爪痕は大きなものであるにも関わらず、現地の方々が皆、一様に笑顔であった事です。その笑顔は深い悲しみを乗り越えて前に進んでいく、と言う

中国・四国支部ボランティア隊

力及ばずも誇りに移動時間の長さの問題

▽日時 6月13日～6月15日

▽場所 宮城県石巻市北上町

▽隊員 隊長・成光一夫(支部事務所長) 津口大輔、川添政司、西河剛(株)フローバ) 清水宏次、高本康正(株)アス・ワン) 徳永忠司(山佐(株) 中曾根善光(株)ナオ) 作業 河川の瓦礫撤去

強い意思の表れなのだろうと思いましたが。

作業後には石巻でも最も被害の大きかった湾岸部を視察してきたのですが、絶句と言う言葉がびつたり来るほど強烈な光景でした。

強烈な悪臭と大量の蠅、ほぼ手付かずのままの瓦礫の山や行き場を失った陸上の船、震災の恐ろしさを再認識したのと同時に復興までの道のりはまだまだ途方もないのだと痛感しました。我々の業界には厳しい視線や批判があることは理解しておりますが、業界人だから、というよりも人としてやらないといけない、と今まで以上に強く思えた事が今回一番の収穫です。(佐藤耕平)

時間的な制約及びび人力での手作業であったため、河川一帯の瓦礫撤去には至らず力の及ばないむなしさを感じましたが、復元された河川を見て派遣隊員全員が「ああきれいになった、自分たちの手できた」と感慨にふけりました。ボランティア受付センターには、

全国各地から引きも切らず多数のボランティア隊がかけつけ、被災者救援のための割り振りに気持ちよく従い、相互にエールを交わしながら各地に散らばる様に感謝するとともに、自分達もここに参加できたことが誇りに思えました。宿泊先、レンタカーの借り上げ、ボランティアセンターでの受付等は、スムーズに推移しましたが、宿泊先からボランティアセンター、同ボランティアセンターから作業現場までの距離が、余りにもかける離れており、合計の往復に約7時間前後を費やすこととなり、作業の効率の悪さが著しかった。

今後の検討事項として、仙台での宿泊先をボランティアセンター付近に移す、日遊協派遣時には、1名をボランティアセンターに派遣・常駐させ、センター職員とともに派遣先をあらかじめ決めておき、効率的な作業を図る、などを検討すべきでしょう。(成光一夫)



なかなかかはかどらないが、川からの瓦礫撤去にがんばる中国・四国支部メンバー

近畿支部ボランティア隊・第1陣

ねぎらいの言葉に感激

注意払って
作業進める

▽日時 5月24日～26日

▽場所 宮城県石巻市北上町

▽隊員 隊長・松本新、中川大雄

(株)大商)副隊長・村田吉嗣(株)

オフィスポストン)宮武宜人(株)

コスモルーム研究所)新垣祐李

(株)ポネール)河野真一郎(株)ア

サヒディード)嶋田義彦(永伸商

事(株)植田勝行(株)福栄産業)

▽作業 廃材・瓦礫を移動・排除

津波によって山裾や河川にたまった廃材や瓦礫を、シヨベルカーで取りやすくするために道路側の土手に運ぶ作業を行いました。現場指揮者の説明で「危険箇所説明がもれてしまう場合がある」とのこと、私達も十分に注意を払って活動しました。作業が進むにつれて、少しずつでもきれいになって、なんとなく心が洗われました。また、地元の方や宿泊先ホテルの方から温かいねぎらいの言葉を受けて感激しました。隊員同士、支部内のコミュニケーションがさらに図れましたし、少しでも多くの

人に参加してもらい、意義を感じてほしいと思います。

現地での注意事項として、トイレ利用が不便、携帯の電波状態の悪いところがある、ゴム手袋や長靴は自前の準備、などがあります。また、日程にもう少し余裕があったほうが、気持ちの上でも十分に

中部支部ボランティア隊・第3陣

心がひとつになって作業

元気に声出す
市民に不安も

▽日時 5月31日～6月3日

▽場所 宮城県石巻市住吉町、中



側溝の清掃に汗を流す



石巻ボランティアセンターで、作業に出かける前の近畿支部メンバー

働けると思います。(松本 新)

央町

▽隊員 隊長・萬道真介(株)森創)

原田暁一(株)森創)岡田康秀(株)

山口)松本直人(京楽観光(株)内

山竜(株)スワロー)松橋基明(株)

高尾)柴田一秀、太田祐市(株)ニ

ューギン)

▽作業 瓦礫撤去、側溝清掃、ト

タン打ちつけ

作業は泥にまみれる力仕事のなかで、現場を通る市民の方に出るのかぎり大きな声で挨拶したのですが、「御苦労さまです」と元気

な声が帰ってきました。辛い方々なのに、明るく振舞っていたのが印象的でした。私達のチームは、8人とも初対面でしたが最初から意気投合し、役に立ちたいと同じ気持ちで作業を進めさらに心が一つになりました。短い活動でしたが、復興に必要なことだと実感しました。チームを解散するとき感無量で涙が止まりませんでした。

ボランティアセンターでは毎日700人の手配をするので、難しい面もあります。依頼主の内容にあう道具がなくて取りに戻ったり、指示不足でとまどったりしたり、やむを得ないとも言えるかもしれませんが。

また、作業をする時、泥の中に鉄クズやガラスなど混じっていることがあり、その他のことでも常に安全への注意が肝心です。

私達の作業したところは家自体は無事の所でしたが、壊滅地帯まで足を伸ばしてみても、自分の目で見て言葉が出ませんでした。被災者の方から、私達の地元で震災がいまどのように報道されているかと何度か聞かれました。忘れられないのでは、という、皆さんの不安が強く感じられました。(萬道真介)